ふしぎなフーセンガム

僕は僕のままでいたい

3年　H・Mさん

大西じゅん君と僕は何だか似ている気がします。どんな所が似ているかというと、スポーツが苦手な所や、本を読むのが好きな所、そして、手先が器用な所です。僕も外でサッカーをするより、家で本を読んだり、お絵かきや折り紙をする方が好きです。なので「じゅん君の気持ち分かる～！」と思いながら読み始めました。

ですがじゅん君がフーセンガムを膨らませて女の子になった時、「なんで女の子？」と、驚きました。なぜなら僕がじゅん君だったら、サッカーの出来る子になると思ったからです。でも、この姿ならだいき君たちに「男のくせにあみものかよ」とからかわれない。という言葉を読んでじゅん君の気持ちが分かりました。じゅん君は堂々と自分の好きな事をしたかったのだと思います。

なので僕は自分の好きなことをするために変身する必要があるか考えてみました。最初は必要がないと思ったけれど、自分の好きなキャラクターのコスプレをして町中を歩けるか想像してみたら、それは出来ないと思いました。なぜなら周りと違うとなぜか恥ずかしくなるからです。「周りと違う」ということは「普通」ではないからです。なので自分の好きな事でも堂々と出来る時と出来ない時がある事が分かりました。そして、「男だから」「女だから」という言葉は良くないと思いながらも自分の心にもそういう気持ちがかくれている事に気が付きました。

それでもやっぱり僕がじゅん君だったら、女の子には変身しません。変身したいものを考えてみたけれど、思いついたのは作文を上手に書ける人や、絵や工作の達人で、どれも努力したり、頑張ればなれるものばかりでした。僕は僕のままでいたいし、自分の事が好きです。それは、僕はじゅん君と違って「男だから」「女だから」と言う人が周りにあまりいないし、他の人とくらべたりせず、僕の良い所を見つけてくれる家族や友達がいるからです。だからじゅん君もお母さんに自分の気持ちを伝えることが出来たらきっと分かってもらえると思います。頑張れじゅん君！